

広報



ちば市老連

VOL. 10

1999-3発行

社団法人 千葉市老人クラブ連合会 (043) 224-2050

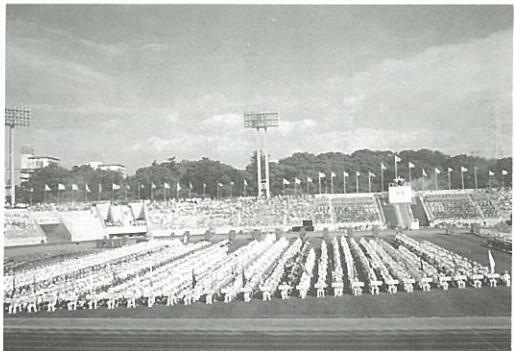
自立や健康づくり全国運動

高齢化のスピードは世界にも類をみない速さで進んでいる。15年もたつと国民4人に1人が65才以上になると予測されているが、特に75才以上の後期高齢者の増加は、社会的には勿論高齢者自身にも大きな課題になってきた。

国際高齢者年がスタートした。世界の共通課題である高齢社会への対応は、既にヨーロッパ諸国を先頭に各国で活動を展開している。

長くなった老後期間を、いかにして健やかに生きるか。老齢者の組織である老人クラブは全国運動として取り組みを始めた。

10月31日から11月2日の三日間、名古屋を中心に関催された全国健康福祉祭、市老連から一三七名が参加した。



高齢社会の課題

いまは働き盛りの人が六人弱で一人の老年者を支えているが、10年後には四人弱、20年後には二・五人で支えなければならないという。つまり、老年者（65才以上）の増加で医療や福祉などの経費を通じ

て、働き盛りの人（生産年齢15～64才）の負担が増大する。もう一つは、大正時代の人生50年時代と、いまの人生80年時代とでは大きな違いがあることである。

むかしは高齢者は少なかつた。少ないから稀少価値があつた。高齢というだけで存在感があった。

いまは長寿によって老後の期間が長くなってきた。

第二の人生期間はうれしいことだが、大きな役割も背負いこむことになった。

どうやって健康で楽しく安心してくらすことができるか。このことは社会全体の問題として、また高齢者自身の問題として、取りくまなければならぬ課題となつたからだ。

市老連の活動

都道府県老連や政令指定市老連では国の助成をうけて「高齢者の健康づくり、予防

健やかに 楽しく
長くなつた老後の期間

国際高齢者年

1999



すべての世代のための社会をめざして

活動の強化促進事業」を実施する全国運動を始めた。

市老連は、健康を維持するためには必要な器具の整備を実施、区老連単位の点検、購入等を指示し、また医療と薬、予防活動等についての研修の併行実施を決めた。既に稲毛区老連では先頭をきって研修が行われており、市老連女性委員会でも研修会を開催することになった。



高齢社会への備え

千葉市保健福祉局長 松田 将

「高齢化」が社会経済のトレンドを表すキーワードとされて既に久しいが、二十一世紀の幕開けを目前に控え、本格的な高齢社会に備えて、高齢者対策の推進はもとより、社会経済の様々な仕組みや個人の生き方の在り様を見直していくことが今まさに求められている。

千葉市は、現状では全国的に見て高齢化率が低く、比較的若い都市であるが、今後、高度経済成長期に流入した世代が高齢世代に移行することにより、急速に高齢化が進むものと見込まれる。

行政としては、こうした状況に的確に対応し、老後を安心して暮らせるように高齢者保健福祉施策を着実に進めることが課題であり、現在、「千葉市高齢者福祉推進計画」に沿って、各種の取り組みを行っているところである。特に本年は、平成十二年度から開始される介護保険制度の実施に向けて、行政を始め本市の保健・医療・福祉の関係者が一体となって、諸準備に取り組み、円滑な制度実施に万全を期さなければならぬ。社会的な連帯による介護不安への対応、保健医療と福祉のサービスの総合化、措置から選択への転換等、新しい考え方に基づく介護保険制度は、今後の高齢者保健福祉対策の試金石の一つとなり得るものであり、本市の個性を發揮した制度づくり・運営を行いたいと考えている。

さて、高齢社会への準備は、行政のみならず、社会経済の各層において、また個人のレベルで、総合的な対応が必要なことは言うまでもない。

特に、高齢社会は、個々人にとっては、人生五十年が八十年へと、長くなつた老後を如何に過ごすか、生き方自体が問われるものである。その際の基本理念の一つは「自立」ということであろう。高齢社会とは、高齢者が自分の判断で自立して生きていく社会の到来と考えられる。もちろん、自立支援の観点から、家族や地域社会等から様々な「ケア」を受けられることが必要である。また、「自立」は高齢者だけの問題ではなく、高齢者を支え、いずれ老後を迎えるすべての世代に共通する課題でもある。

こうした点を念頭において、まず、一人ひとりが高齢期における「自立」を自覚し、健康づくりと生きがいづくりに主体的に取り組んでいくことが何より重要なことである。さらに、高齢者に親和的な社会とするため、社会全体で社会的な弱者あるいは援助される存在と見なしがちであった高齢者像の転換を図り、自立した存在へ、更には価値・文化の発信者へと積極的な位置付けを行うことが必要であろう。

高齢社会への備えの第一歩は、自分自身の生き方、人生設計を見つめ直すことから始まると言つても過言ではない。

未来に向つて

千葉日報社社長 鶴岡清

二十一世紀まであと二年、皆さんには社会のこと、家族のこと、地域のことなど考えることが少くないと思います。でも、世の中万事都合よく行くわけではありません。

今年はインフルエンザが流行してあちこちの老人ホームでお年寄りの方が亡くなられました。このことは、新聞やテレビで報道されたとおりです。千葉県内もその例に洩れず犠牲になられた方がいます。かえすがえすも残念なことです。

おまけに景気が相変わらず好転せず、暗い気持になっている方が多いと思います。地域振興券まで発行して、不況一掃に努力していますがおいそれと妙案とまでは行くまい。金利が低いためお年寄りの方々にとっては、見通し難い時期がまだまだ続くとなればなるまい。

ところで、話は変わりますが、昨今の社会は、少子化、高齢化が一段と進んでいます。県老連の一月号で沼田武千葉県知事が述べていますように「千葉県は全国で四番目に若い県（年齢平均）のこと、しか

し、高齢化は着実に進んでいて高齢化率が一二・六%になった」といいます。

そのほか千葉県当局では平成三年に作成した「ちば新時代福祉ビジョン」に基づいて「だれでもが、いくつになっても健康で生きがいをもって暮らせる社会環境づくり」に取り組んでいることですから、かなり期待してよいのではないか。

不幸にして病に倒れたら、それなりの介護を依頼するしかありません。来年四月から「介護制度」がスタートします。いま各市町村では、この問題と真剣に取り組んでいますし、準備を整えつつあります。

でも基本的には健康な人は「自分のことは自分でやる」ということが社会を明るくする根本になると思います。幸せは自分たちで築いて行くという気概を持つ必要があります。このことが今後の「老人ク」の果たすべき役割といって言いすぎでないと思います。

なにせ、子供たちの大部分が親の面倒をみなくなっていることは背すじの寒くなる気がします。一方、お年寄りの方が元気で子供たちの世話をならなくともよいとする傾向にあるのも事実です。それだけお年寄りの方が元気ということでしょう。

従つて老境に入つたら「なにをすべきか」

さあ、頑張つて行きましょう。

老人クラブにとっての 国際高齢者年

全国老人クラブ連合会事務局長 川尻 禮郎

一九九一年（平成三年）第
四六回国連総会において、高
齢者の「独立」「参加」「保
護」「自己実現」「尊厳」と
いう五点の実現をめざす「高
齢者のための国連原則」が採
択され、各国はこれを政策及
び実際の計画・活動において
具現化することとしました。
翌年（平成四年）の国連総会
で、一九九九年を国際高齢者
年とする決議がされました。

一方、昭和六〇年の国際青
年には、アフリカ・アジア
難民等救援基金運動を展開し
一億二千万円を拠出。老人医
療本人一部負担増額案反対運
動も展開し、昭和六一年の長
寿社会対策大綱決定に向けて
も高齢者の声を反映する取り
組みを行いました。

一方、昭和六〇年の国際青
年には、アフリカ・アジア
難民等救援基金運動を展開し
一億二千万円を拠出。老人医
療本人一部負担増額案反対運
動も展開し、昭和六一年の長
寿社会対策大綱決定に向けて
も高齢者の声を反映する取り
組みを行いました。

この間にも、高齢社会対策
大綱決定（平成八年）や介護
保険法成立（平成九年）に向
けた意見反映の取り組みを展
開しています。

（昭和五七年）、
高齢者問題
これに先立つ一九八二年
世界会議で「高齢者問題国際
行動計画」が採択されました。
全老連は当時いち早くこの国
際行動計画の仮訳を入手し組
織内に広報し、その後の取り
組みについても論議を重ねま
した。

（昭和五七年）、
高齢者問題
これに先立つ一九八二年
世界会議で「高齢者問題国際
行動計画」が採択されました。
全老連は当時いち早くこの国
際行動計画の仮訳を入手し組
織内に広報し、その後の取り
組みについても論議を重ねま
した。

一九八二年
（昭和五七年）
高齢者問題
契機に
国際行動計画を

一一世紀に向けての
新たな老人クラブ
づくり

このように、老人クラブ
は以前から一貫して、「地
域を基盤とする高齢者の自
主組織」として活動を展開
してきており、「高齢者の
ための国連原則」を具体的
に進めてきたともいえます。

従って我々老人クラブは、
今年（一九九九年）の国際
高齢者年を、単なる記念年
や催事年、高齢者の為の年
や敬老年と考えるのではなく
く、「すべての世代のための
社会をめざして（Towards
a society for all ages）」

「病にかかるぬ運動」を、よ
り積極的な「健康をすすめる
運動」に改め、昭和六一年に

昭和五九年にそれまでの
「病にかかるぬ運動」を、よ
り積極的な「健康をすすめる
運動」に改め、昭和六一年に

昭和五九年にそれまでの
「病にかかるぬ運動」を、よ
り積極的な「健康をすすめる
運動」に改め、昭和六一年に

十五日敬老の日・老人保健福
祉週間や十月一日国際高齢者
の日の本当の意義を、すべて
の世代の人々とともに考えて
みましょう。



ちばヘルスプラン21

本格的な少子・高齢社会が来る21世紀に向けて《明るく生きがいに満ちた健康都市》の実現をめざして

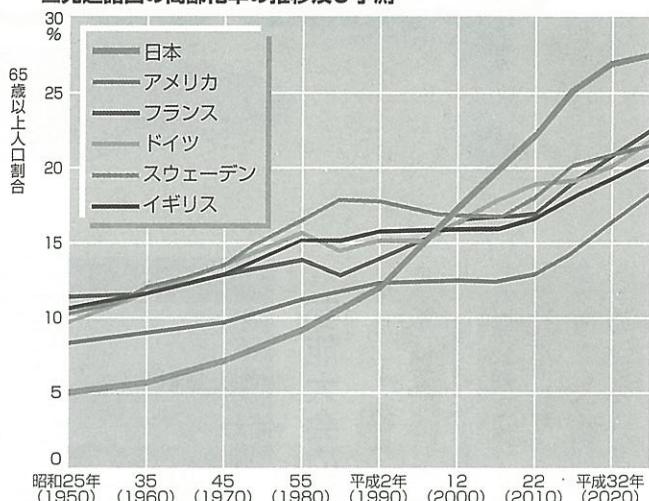
保健医療計画は
平成12年度を目標年度とする4年計画

保健医療計画の体系

- 健康づくりの推進
- 保健医療サービスの充実
- 保健医療従事者の確保
- 保健医療施設の整備充実と連携強化
- 新たな地域保健体制の整備
- 保健・医療・福祉サービス提供システムの整備
- 食品・環境衛生対策の充実

(千葉市保健福祉局・保健福祉サービスハンドブック)

■先進諸国の高齢化率の推移及び予測



資料：総務省統計局「国勢調査」

厚生省国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成9年1月推計)(中位推計)
UN,World Population Prospects:The 1996 Revision

「国際高齢者年」に寄せて

国連は、今年、一九九九年を「国際高齢者年」と決め、国際的なキャンペーンを開催しています。その基本概念には、全世界人口がかつてない高齢化時代に入っていること、しかも地球人類の人口が六十億を突破しようとしている現在、社会をより活力あるものとして存続させるためには、高齢者が自らその問題に取り組む必要がある、という認識があります。そして高齢者のための国連原則として次の五つが示されました。

◎自立

言葉の意味は改めて言う必要はありませんが、ここで強調されていることは、高齢者が社会的弱者として社会からサービスを受けるだけではなく、そこから一步踏み出してサービスの主体に自ら関わることが要請されている。

高齢者に対する政策決定に積極的に参加すること、ボランティア奉仕、いろいろな集会や運動を自ら組織すること

を「国際高齢者年」と決め、国際的なキャンペーンを開催しています。その基本概念には、全世界人口がかつてない高齢化時代に入っていること、しかも地球人類の人口が六十億を突破しようとしている現在、社会をより活力あるものとして存続させるためには、高齢者が自らその問題に取り組む必要がある、という認識があります。そして高齢者のための国連原則として次の五つが示されました。

◎ケア

介護保護・医療・施設利用等は、すべて基本的人権として享受することができるのだ

という自覚に立つこと。

◎自己実現

自分が潜在的に持っている可能性を実現するための(つまり生き甲斐を追求するための)社会資源を利用する自由。

◎尊厳

これがある意味で一番大事なことらしいが、高齢者は社会の単なる庇護者であるという意識から自ら解放され、年齢にかかわりなく公平に尊重されるべき人格であるという

自覚を持つこと。

これらは、言葉ではさらさらと書き捨てができるのとは裏腹に、私たち日本人にとって、今までの意識を

への要請。アメリカの高齢者組織の一部では、政策に直接反映する決議(いわゆる「ロビー活動法」)に基づいているかもしれません)をしていることが、朝日新聞で報じられています。

ただ、この宣言の未来には人種差別や南北格差の解消、東西文明の融合といった希望が見えないわけではありません。しかし、確実に言えることは、環境汚染や人口増、そして食糧問題、エネルギー問題等、後戻りが利かない地球的大危機の中で当面している世界人口の高齢者は、何やら文明の爛熟そのものがもたらしたそれ自体の矛盾であることに外ならないようと思われます。つまり、これをクリアできるかどうかを、誰から試されているのだとと言えましょうか――。私たち既成の老人会もそろそろ意識転換すべき時期に入ったのかも知れません。

お元気ですか

事務局だより

会長研修旅行

十月一、二日の一泊一日で、
実施しました。

群馬県太田市にある冠稲荷
神社の神官による健康保持に
ついて、体験談を通じ有意義
な講話を受け（写真）、巫女
舞や天然記念物「金木犀」等
を見学し、また、各クラブの
情報交換等親睦を計ることができました。



芸能大会の開催

十月二十九日、市民会館大
ホールにて開催し、各チーム
共、日頃の成果を十分に発揮
され盛会裡に終了しました。

（写真は市長賞を受賞した悠
友クラブの合唱団）

す。

市長賞 千城悠友クラブ
議長賞 さつきが丘若葉会
社協会長賞 穴川地区轟延寿会
特別賞 幕張錦令会

各クラブのリーダーの方々に
は、最も必要なものであり、
有意義でありました。



全国健康福祉祭

十月三十一日から十一月二
日まで名古屋市を中心愛知
県で開催されました。市老連
会長を団長とする一三七名が
千葉市から参加しました。

市老連からは、囲碁、将棋、
ゲートボール、シンボジュウ
ムに参加し、囲碁の佐藤吉司
さん（真砂地区）が、個人の
部ブロック準優勝をしました。

指導者研修会

十一月五日、千葉大学教授
の明石要一先生の「チームワー
クとリーダーシップ」について

十一月十七日・十八日、福
島県郡山市で全国から三千人
が参加し、盛大に開催されま
した。市老連からは、会長、
副会長を含め十三名が参加し
ました。大会は「創造と連帶



輪投げ大会

十一月十一日、公園体育馆
にて、開催されました。

各地区を代表して出場され
た選手を代表し、北地区的齊
藤稔さんが選手宣誓をし、元
気に正々堂々と熱い戦いを展
開しました。成績はつぎのと
おりです。

団体の部

優勝	秋山 正夫
準優勝	幕張地区
三位	北地区
個人の部	三位

優勝	秋山 正夫
準優勝	幕張地区
三位	北地区
個人の部	三位

優勝	秋山 正夫
準優勝	幕張地区
三位	北地区
個人の部	三位

優勝	秋山 正夫
準優勝	幕張地区
三位	北地区
個人の部	三位

優勝	秋山 正夫
準優勝	幕張地区
三位	北地区
個人の部	三位

ふれあいの店

毎年実施している千葉市か
らの委託事業で、今年は扇屋
ジャスコ鎌取店のご協力によ
り十一月二十六日から二十九
日まで同店（写真）で開催し
ました。この地域は、若い世
代の方が多く、高齢者の手作
り作品が大変好評でした。

世紀を」をテーマに、七部会
に分かれて研究し、その成果
を全体会で発表しました。研
修に続き、全老連表彰式が行
われ、個人で新生市老連会長
が、団体で園生台寿会が、表
彰されました。おめでとうござ
います。

行事には積極的に参加してい

ことで何かしら成長を感じるものでなければ魅力はないし、

世說新語

で表側と裏側の会員七十名の
単老です。その裏側の会員に

まし
た

卷之三

の草取り、夏祭り、秋の旅行、
年末の庭の大掃除、腰痛一々会

年末の歴史講演会と新年正月の賀詞交歎会の餅つき等。また、区の計画する街の統一清掃、市立海浜病院のボランティアなどにも参加しています。

私達老人クラブの面々は長い年月を生きてきて、夫々色々な経験を積んできました。近年、高齢者がどんどん増え、社会の高齢化が急速に進んでいますが、私達は高齢者なりの経験を活かして、世のために人のために尽したいものです。

悠友クラブ
安藤幹

二十一世紀に向けて変化していく社会に適応する老人クラブ作りに努力しているそれらのクラブに敬意を表し乍ら悠友クラブのことを語らせて頂きます。

昨年十一月に創立五周年を
迎えたクラブですが、発足時
五十八名の会員が現在では八
十九名となりました。これは
懇親会の足跡を物語る貴
重な数字かとも思います。

にそのために知恵を出しあい努力しあう中で会員として楽しい時間を持つことだと思いまます。そのためには会の活性化をはかり、組織をマンネリ化しないようにと、会の主旨に賛同する六十才未満の人達にも参加して貢う贊助会員制導入をして六十才以上の正会員と共に楽しい会を作るため知恵を出し合い、努力をし奉仕の気持ちを大切にして、友情を育み乍ら和やかな雰囲気を作っております。(2)活動内容 前号三頁(1998.10発行)に深山会長より詳細にお知らせしておりますのでここで

思われる会を作ることに努力している点について、(1)老人クラブに入った目的は何か／を考えてみると、(1)独りではなく、仲間の友情に支えられて高齢化社会を楽しく生きる。(2)クラブの一員として地域社会に親しんだ生活、つまり社会参加。この二点を目標にそのために知恵を出しあい努力しあう中で会員として楽しい時間を持つことだと思いま

いていく生徒たちの多くが、お互いにいき乍ら第一回の大会がある、うつむく人クラブによるようと思いま
る。願わくはこのラブでありと

の人生が生き甲斐
の意味の刺激を頂
き方。同じ地域に
の縁を大切にして
るおいのあるもの
に、そのために老
人ってよかつたと
を作ることが大切
です。

まいました。後に遭された人の涙は、桜が散り若葉が芽吹いてもかれません。

老人クラブの友愛活動はこんな時こそ求められるのに何故もつと早く気付かなかつたかと悔れます。折りにとれ会員達の話し合いうちに幸いなことに床ヤのご夫婦（奥さんは賛助会員）から店の定休日に月二回午後半日か

はじめのうちは歌いながら泣いてしまう—Iさん。歌がとびきり上手なSさんの暗い顔、長い間の介護の疲れを肩にいっぱい背負った人に生半可な同情はなかなか通用しません。そのうちにレパートリも増え、小さな発表の場もできました。歌はEさんのリハビリとなり皆の心の癒しの場ともなってきました。

小 関 澄 子
誉田第二長寿会

の涙は、桜が散り若葉が芽吹いてもかれません。
まいました。後に遺された老人クラブの友愛活動は、
こんな時こそ求められるのに、何故もつと早く気付かなかつたかと悔れます。折りに々会員達の話し合ううちに、幸いなことに床ヤのご夫婦（奥さんは賛助会員）から店の定休日に月二回午後半日を

で表側と裏側の会員七十名の
单老です。その裏側の会員に
よるカラオケの会が誕生した
のは昨年の五月でした。

昨年の一月、長い闘病の末、
二人の会員が相次いで旅立つ
ていきました。高齢のSさん、
乳がんの手術をしているIさ
んの二人が独居者になってしま
いました。

Sさん、Iさん、独居で足
の悪いOさん、九州から転居
のNさん、病弱なご主人を介
護するUさん、舌の手術で言
語が少し不自由なEさんと私
の計七人が床やの奥さんの指
導でカラオケの会が結成され

いきいき通信



一隅を照らす人に学ぶ

長洲常盤会 三宅勝利

私の家の近くに住むS氏は、七十七才で、既に第一線を退き、悠々自適の生活をしています。彼は朝食前には

近くにある「市立青葉の森公園」の散歩に出掛け、約七〇〇〇歩の道のりを一時間かけて歩行します。

散歩から帰ると、家の前

にある「ゴミ集積所」と、

その周辺の道路の清掃をすることを日課にしています。

公共のために無償の奉仕をする人は結構見受けますが、どうかすると、

周囲の「無理解」「非協力」に心の鬱積を感じさせられる人

何となく善意の押し付けがましさを漂わせる人がいるのです。だが、S氏の場合は全く異なります。清掃も彼にとっては、散歩の延長なのです。自分の体の運動のために、楽しんでやっているのです。彼自身は「奉仕」などの意識はなく、さわやかで自然体なのです。

清掃当番の人も、彼一人

に任せておいては申し訳ないという気持ちで、確實に責任を果たすように心掛け、ゴミを出す人も、迷惑をかけではなくないと、マナーに気をつけるようになります。佛教の言葉に——「一隅を照らす——という教えがあります

月日は百代の過客にして、行きかう年も旅人也。舟の上に生涯をうかべ馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖^{すみか}とす。古人も又多く旅に死せるあり。奥の細道序章の一節であります、芭蕉翁は風雅を愛しもののがいるのです。だが、S氏がいるのです。だが、S氏の場合は全く異なります。清掃も彼にとっては、散歩の延長なのです。自分の体の運動のために、楽しんでやっているのです。彼自身は「奉仕」などの意識はなく、さわやかで自然体なのです。

人生八十年をどう生きるか

長沼原台千寿会 福田正典

ます。

これは、社会のために目立った貢献は出来なくとも、せめても社会のためになる存在でありたいという意味です。

部屋の片隅を照らす小さな灯（ともしび）のように、僅かでも社会のためになる存在

心を動かし、やがて地域に広がるS氏の人柄と行為に、

「一隅を照らす」眞の姿を見

る思いで、心打たれ人生八十年の生き方として、彼の境地に少しでも近づきたいと考えています。

月日は百代の過客にして、行きかう年も旅人也。舟の上に生涯をうかべ馬の口とらへて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖^{すみか}とす。古人も又多く旅に死せるあり。奥の細道序章の一節であります、芭蕉翁は風雅を愛しもののがいるのです。だが、S氏がいるのです。だが、S氏の場合は全く異なります。清掃も彼にとっては、散歩の延長なのです。自分の体の運動のために、楽しんでやっているのです。彼自身は「奉仕」などの意識はなく、さわやかで自然体なのです。

して元気に地域社会にとけ込み、サークル活動にそれぞれ活発な見聞を広めている。千寿会は独居老人を励まし孤独にしないことを活動の一つとし、会に入れば何でもバラ色になるものでないけれど、皆でやればこわくないでは困る。年齢で人間を区別することは問題がある。高齢者は一律ではない。個性的であり、個人の属性や生き方によってそれぞれであることは言うまでもありません。二十一世紀には超高齢者社会となり、六十五才以上の高齢者が二千パーセントを超えるとそう呼ぶそうです。先進国で最も進んでいるのはスウェーデン、イギリス、ドイツの順になっています。価値観も多様化し本当の豊かさとは、人間として毎日を有意義に過ごし、毎日が日曜日であつてはならないと思う。寝たきりにさせない、介護保険の問題も平成十二年四月には有効に働くことを念ずるものであります。高齢者社会に於て後期高齢者や障害を持つ高齢者の支援をまず第一に元気な高齢者はボランティアに精一杯励もう。

人生は旅人であると古人は言っています。世界一の長寿国日本では高齢者社会

『私の夢』

宮園松友会 間馬恭一

老人クラブとは聊か性格を異にするが、アメリカに『退職者協会』という団体があり、五十才以上の約半数をもつて組織する世界最大の高齢者団体で会員数は三、三〇〇万人強といわれている。年会費八ドル（千円足らず）を支払えば会員になれ、次に述べる特権を享受することができる。

この組織は、米国の政界に強い影響力を行使はしているが

超党派の組織で個別の候補者の推薦をしたり資金提供など

ではない。ただ政策の違いについての情報は提供するとい

う姿勢である。

お国柄の相違もあるが所謂

日本的なボランティア活動のほかに、自前の保険を用意し

て会員に提供、安い医薬品の

郵送販売、法律相談、運転技

能講習会、ホテル等での割引

きサービス、納税申告補助や

寡婦支援、等々のボランティ

ア活動が目立っていて高齢者

の心を掴み人気を集めている

のことである。

この組織の行動モットーは

ア精神である。

この奉仕される側ではなく奉仕

する側に」というボランティ

ア精神である。

この組織の現

残念ながら単位クラブの現

状況

の道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来ないこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来ないこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来うこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

ための組織活動が不可欠にな

るであろう」と述べておられ

るが老人クラブの運営に関し

極めて示唆に富んだ意見だと

思う。

として、高齢者でなければ出

来すこと、例えば戦後民主

主義の超克など自信をもつて

積極的に処していきたいもの

である。少なくとも老人クラ

ブは『ゴール』ではなく『ス

タート』であるとの気概を忘

れずに努力したいと思う。

この道に詳しい一橋大学、

富沢教授は「高齢者を介護や

支援の対象と考えがちの日本

と違って、高齢者自身がボラ

ンティアになって活動し、そ

れが高齢者の生甲斐に繋がっ

ていることがこの組織の活力

の源泉なのである。日本でも

今後は高齢者による高齢者の

丸太

詩

時刻

漢

詩

西小中台さくらクラブ

小林蒼洲

新年書懐

晨鶴簾外麗初日

華髮拈毫椒酒香
驟暖書窓春色遍
風和馥郁早梅粧

(解説)

一番鶴が鳴き窓外の初日を贊美
白髪の身が筆を拈(ひね)り墨跡に親しむ
にわかな暖氣、書斎に春が広がる
風やわき粧(よそおい)の梅より香りただよう

西小中台さくらクラブ
植田青湾

雪景

寒雲暗澹寂無涯
四面鋪霜薄暮垂
曉起紛々天釀雪
新粧一色古松枝

(解説)

寒雲、暗澹(あんたん)寂しきこと涯(がさり)無く
四面、霜を鋪(しき)て薄暮(はくぼ)垂る
曉起すれば紛々として天雪を釀し

(明け鶴の喧騒で目覚めた頬に一筋の涙)

新粧一色古松の枝

短歌

園生台寿クラブ

中川敏子

正月の名残どごめし葉牡丹に
きいろ寒菊目にしめるほど

熊笹の葉末をおちるひと雪
つくばいの水波紋えがけり

成人の喜び待ちし白き鶴
夢を保持して世に飛び立ちぬ

映像のシエクスピアと言われしに
黒沢逝きて世界慟哭

朱に染めしもみじの幾葉養老の

川面に浮きて疾くゆるくゆく

唐突につがいの雉がとび立てり
れんげ祭にいそぐ畔より

都賀の台シルヴァークラブ

平野寿男

尚生きてゐたき老人われは来て
診療を待つ長き時間を

笑顔がすてき

遠く住む孫らと話交わさぬか
受話器がしきり取れと促す

土肥千代

過ぎし日も今も青春初鏡

大寒や亡友の名を消す住所録

俳句

時雨降る小窓のガラスにふく息の
ほの白く見ゆ深冬の夜

小仲台地区

狩野喜美

初春や昨日と同じ

厨妻

春立つや街も黄みどり

さんざめく

春立つや友と落ち合つ

喫茶店

健勝会々員

篠崎秀次

犬ふぐり

土の温もりを感じをり

もこもこと

雄しへの目覚め猫柳

やまたづの

ほころぶ景や翔ぶがごと

吉田桂吉

都賀の台シルヴァークラブ

待春の足の歩幅に愈えきざす

海鳴りや御歎迦のおはす山枯るる

なずなの花のこまかき白よ

水槽の稚鮎分けして卒業す

如月の凍てたる土に生きてはう

喜寿をすぎ曾孫をいだき頬よせて

昔わが子の匂い偲びぬ

とどしは国際高齢者年

社会参加活動

地域(町内会・自治会)活動

趣味・健康・スポーツ・

教育・文化等の活動

ボランティア(社会奉仕)活動

シルバー人材センターなどにおける

生産・就業活動

世代交流

各種スポーツ

文 通

施設訪問

文化・技能の伝承など

すべての世代のための社会をめざして――

編集者の手帖

■ 健康づくりにしても、生きがいづくりや助けあいにしても、わが身のことである。高齢者一人一人が、どれだけ実感し動いてくれるかが、いきいき社会の成否を左右する。もまとまれば強く大きくなる。
■ 一人の力は弱い。弱い力でも実践部隊である地区や単会の活動が注目され期待される所である。■ 国が三次補正で老人クラブの健康づくり・予防活動の強化推進事業に総額十億余円を決め、活動の助成にあたったのもこのためである。■ ちば市老連第10号が広報活動のメニューテーマとしたのもここにあるが、特に松田保健福祉局長さんをはじめ鶴岡千葉日報社長さん、川尻全老連事務局長さんのご寄稿は重みを加えた。心から感謝申し上げたい。(広)

ちば市老連 第十号

平成十一年三月一日発行

発行
〒260-0013
(株)千葉市老人クラブ連合会
千葉市中央区中央一丁目
千葉市社会福祉事業団ビル
○四三(二二四)二〇五〇

FAX 〒263-0021
印刷有限公司 宮坂印刷
○四三(二五二)四五三七
○四三(二五二)四五三五